

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	21825	地球温暖化対策事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2172
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	2	総務費		分野	6	環境・衛生	
	項	1	総務管理費		基本施策	1	快適に暮らせる環境を整備する	
	目	18	環境政策費		施策	2	地球環境への負荷の軽減	
実施計画事業	地球温暖化対策推進事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化防止対策の身近な取り組みについての普及啓発を図る</li> <li>緑化意識の高揚と推進を図る</li> </ul>		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコワットやCO2カルクを使用した夏休みや冬休みの環境学習を行う</li> <li>CO2削減、地球温暖化防止の一環として、苗木等を配布して公共施設の緑化を図る</li> </ul>		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
①	苗木等配布公共施設数	箇所	目標値	25	50	50	50	
			実績値	26	50	50	-	
算出根拠等			達成率(%)	104	100	100	-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
②	苗木等配布本数	本	目標値	3,000	3,000	4,000	3,000	
			実績値	3,080	3,862	3,000	-	
算出根拠等			達成率(%)	103	129	75	-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
①	小中学生等環境学習参加者数	人	目標値	50	110	150	-	
			実績値	39	86	120	-	
算出根拠等			達成率(%)	78	78	80	-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
②			目標値				-	
			実績値				-	
算出根拠等			達成率(%)				-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)(A)			1,108	3,421	3,100	4,500	
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	0	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0	
一般財源			1,108	3,421	3,100	4,500		
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		目標値	12	36	33	48
				実績値	94,235	93,822	93,312	93,300
②	受益者 市民(4月1日現在)(B)		目標値					
			実績値					
算出根拠等								

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・総合計画に位置づけられ、CO2削減や地球温暖化防止など生活環境の保全上、身近な取り組みとして重要性は高い。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	環境への理解と関心が高まり、環境意識の向上が図られている。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	公共施設の緑化や、環境学習により環境意識の向上が図られる。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	緑化木の配布数や、環境学習の参加者は目標値をおおむね達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	公共施設の緑化や環境学習を行うことは、市民の環境意識の向上を図る上で有効である
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	小中学校の総合学習の時間短縮などにより、環境学習への取り組みが難しくなっている
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	公共施設への環境木の配布を継続しているが、原材料価格の単価が増加傾向にある
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	身近な取り組みの実施により普及啓発を図っており、受益者1人当たりのコストは適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	環境学習への参加者は増加傾向にあり、コストは適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		15.0 / 20.0	100点換算 → 75 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	小中学生等への環境学習を充実するなど、地球温暖化防止対策の身近な取り組みの普及啓発を図る				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの事業効果の検証やそれを踏まえ、より効果的な取り組みを検討する必要がある。</li> <li>教育委員会と連携を図りながら環境学習を実施する必要がある。</li> </ul>				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	3,100	3,100	0	21,100	21,100
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他			0		
一般財源	3,100	3,100	0	21,100	21,100

予算要求の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設の緑化にかかる経費</li> <li>小中学生等の環境学習にかかる経費</li> </ul>
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	<p>積算内容を精査 小水力発電設備を市内10か所に設置 太陽光発電装置設置に対する助成制度を環境政策推進事業費から移行し、制度を拡充(事業所用) 市が管理する公共施設の白熱電球を全てLED電球に交換</p>
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	41500	水質汚濁対策事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2172
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	1	保健衛生費		基本施策	1	快適に暮らせる環境を整備する	
	目	5	生活環境費		施策	1	生活環境の保全	
実施計画事業	水質汚濁対策事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質の汚濁を防止する</li> <li>河川水質の監視及び河川環境保全の重要性の啓発</li> </ul>		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>水質調査の実施</li> <li>水生生物調査イベントの開催</li> </ul>		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 水質調査地点数	箇所	目標値		25	18	19
実績値				25	18	19	-
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	② カワゲラウォッチングの開催	回	目標値	1	1	1	1
実績値			1	1	1	-	
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① カワゲラウォッチング参加者数	人	目標値	60	60	60	60
実績値			76	88	60	-	
算出根拠等	市民アンケート		達成率(%)	127	147	100	-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②		目標値				
実績値						-	
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			2,212	1,005	1,350	1,200
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0
	一般財源			2,212	1,005	1,350	1,200
コスト面	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)	(A/B)	23	11	14	13	
		受益者 市民(4月1日現在)(B)	94,235	93,822	93,312	93,300	
	②						
算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	総合計画に位置づけられ、水質汚濁の防止、河川水質環境の保全上、重要性は高い。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	環境保全の重要性を知ってもらい、環境について考え直してもらい機会が提供できる
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	河川環境の保全に役立っている
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	カワゲラウォッチングの参加者は目標値を達成しており、市民の河川環境への関心も高まっている
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	河川水質調査は水環境の変化を把握するうえで有効である
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	少子化によりカワゲラウォッチングへの参加者の減少が予想される
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	河川水質調査地点、箇所数の見直しをし、コスト削減を図っている
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	河川環境保全の重要性から判断して、受益者1人当たりのコストは適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	河川環境への関心は高まっており、コストは適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		18.0 / 20.0	100点換算 → 90 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	河川水質調査や水生生物調査等を継続し、河川水質の監視及び河川環境保全の重要性の啓発に努める				
総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	(担当課評価に同じ)				
議会からの提言等					

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	1,350	1,714	364	0	0
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他			0		
一般財源	1,350	1,714	364		

予算要求の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>河川水質の監視及び河川環境保全の重要性の啓発等に努めるための河川水質調査等にかかる経費</li> <li>河川水質調査 11河川22箇所</li> <li>カワゲラウォッチング 2河川5箇所</li> </ul>
要求額増減理由	定期水質調査地点数を1ヶ所増やしたことによる経費の増
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	生活環境保全事業費へ統合
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	41510	大気汚染等対策事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2172
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	1	保健衛生費		基本施策	1	快適に暮らせる環境を整備する	
	目	5	生活環境費		施策	1	生活環境の保全	
実施計画事業	大気汚染等防止対策事業費							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気汚染防止法に基づく県委託事務</li> <li>・大気観測局における常時監視などにより、大気の観測を強化し、大気汚染の防止に努める。</li> </ul>		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気環境測定局(花岡駐車場)における常時監視</li> <li>・酸性雨調査</li> </ul>		
概要	前回の評価からの改善・改革のポイント			

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①	大気観測局地点数	箇所	目標値	2	2	2	2
			実績値	2	2	2	-
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
②	酸性雨調査箇所数	箇所	目標値	5	1	1	1
			実績値	5	1	1	-
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①	市民アンケート		目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				271	27	100	50
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0
	一般財源			271	27	100	50
コスト面	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画	
							目標値
①	受益者1件当たり(円)(A/B)	(A/B)	3	0	1	1	
			受益者	市民(4月1日現在)(B)	94,235	93,822	93,312
算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			C(0)
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	評価対象外		
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	評価対象外		
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	評価対象外		
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	環境基準を満たしている	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	環境基準を満たしている	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	環境基準を満たしている	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・酸性雨調査地点、箇所数の見直しをし、コスト削減を図っている	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・大気環境保全の重要性から判断して、受益者1人当たりのコストは適正である	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	評価対象外		
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		10.0 / 10.0	100点換算		100 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	大気観測の強化を図り、引き続き大気汚染の防止に努める。				

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	(評価対象外のため意見なし)				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	100	83	△17	0	0
財源内訳					
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他			0		
一般財源	100	83	△17		

予算要求の概要	・大気汚染の監視及び大気の状態を把握するための酸性雨調査等にかかる経費 大気観測局 2箇所 酸性雨調査 1箇所
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	生活環境保全事業費へ統合
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	41525	公害防止対策委任事務費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2172
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	1	保健衛生費		基本施策	1	快適に暮らせる環境を整備する	
	目	5	生活環境費		施策	3	公害の発生防止	
実施計画事業	公害防止対策事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	公害の発生防止に努める		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>騒音、振動、悪臭苦情に係る立入検査の実施</li> <li>騒音の定期観測</li> </ul>		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績			
				H21	H22	H23見込	H24計画
成果面	算出根拠等	目標値					
		実績値					-
成果指標	②	目標値					
		実績値					-
成果指標	算出根拠等	達成率(%)					
		達成率(%)					-
コスト面	①	騒音、振動、悪臭等苦情件数	回	26	35	30	-
		達成率(%)		#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	-
コスト面	②	目標値					
		実績値					-
コスト面	算出根拠等	達成率(%)					
		達成率(%)					-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			166	54	570	250
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			97	0	74	74
	一般財源			69	54	496	176
コスト面	①	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画	
		受益者1件当たり(円)(A/B)	2	1	6	3	
		受益者 市民(4月1日現在)(B)	94,235	93,822	93,312	93,300	
		算出根拠等					

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			C(0)
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	総合計画に位置づけられ、公害防止対策上、重要性は高い。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	苦情に対する適切な対応が検討できる	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	騒音測定を継続することにより、道路施設対策、交通の円滑化など、大気汚染対策を含めた総合的な交通施策の推進に役立つ	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	評価対象外	苦情対応のために騒音や悪臭の測定を実施するものであり、目標値の設定ができないため	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	騒音測定を継続することにより、道路沿線における交通騒音や振動の緩和を図るための資料として役立っている	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	市民からの苦情等に適切な対応を心がける必要がある	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	苦情件数は増加傾向にあるが、適切な対応により、コスト削減に取り組んでいる	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	生活環境保全の重要性から判断して、受益者1人当たりのコストは適正である	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	生活環境への関心は高まっており、コストは適正である	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		16.0 / 18.0	100点換算		89 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	市民の快適な生活環境を維持向上させるため事業を継続する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	570	2,843	2,273	0	0
国庫支出金			0		
県支出金	74	74	0		
起債			0		
その他			0		
一般財源	496	2,769	2,273		

予算要求の概要	騒音、振動、悪臭苦情にかかる立入検査や騒音の定期観測にかかる経費
要求額増減理由	平成24年度から騒音規正法の改正により、自動車騒音常時監視業務が県から事務移譲されることによる経費の増
事業実施の課題	公害苦情に対する適切な対応を図るため、専門的な知識を有する職員の育成が必要である。

財務部査定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活環境保全事業費へ統合</li> <li>自動車騒音常時監視業務については、5年に1度の調査で対応が可能であるため、予算計上を見送る。</li> </ul>
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	41535	生活環境保全事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2172
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	1	保健衛生費		基本施策	1	快適に暮らせる環境を整備する	
	目	5	生活環境費		施策	1	生活環境の保全	
実施計画事業	環境行政推進事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	地球環境の保護と市民の環境意識の向上を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山市快適環境づくり市民会議の運営</li> <li>・ポイ捨て等及び路上喫煙禁止条例の啓発</li> </ul>		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		グリーンマーケット及びクリーン作戦の開催	回	目標値	4	4	4	4
算出根拠等		実績値	4	4	4	4	-	
		達成率(%)	100	100	100	100	-	
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		ポイ捨て等及び路上喫煙禁止の啓発パトロールの実施	回	目標値	117	136	135	135
算出根拠等		実績値	117	136	135	-		
		達成率(%)	100	100	100	-		
成果指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		グリーンマーケット参加者	人	目標値	2,000	2,000	2,000	2,000
算出根拠等		実績値	3,000	2,000	2,000	-		
		達成率(%)	150	100	100	-		
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		クリーン作戦参加者	人	目標値	200	200	200	200
算出根拠等		実績値	202	210	200	-		
		達成率(%)	101	105	100	-		
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)				(A) 1,799	566	1,360	2,000
	受益者負担(使用料・負担金等)				0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				0	0	0	0
コスト面	一般財源				1,799	566	1,360	2,000
	指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)		(A/B)	19	6	15	21
		受益者	市民(4月1日現在)	(B)	94,235	93,822	93,312	93,300
算出根拠等								

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・総合計画に位置づけられ、生活環境の保全上、身近な取り組みとして重要性は高い。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	フリーマーケット等への参加者も多く、市民のニーズは高い
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	環境への理解と関心が高まり、環境意識の向上が図られている
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	フリーマーケット等への参加者も多く、成果指標の目標値を達成している
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	市民の環境意識の向上を図る上で有効である
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	市諸地域での市民会議の会員数の増加に対する工夫が必要である
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・緊急雇用対策事業による啓発パトロールの実施などコスト削減に取り組んでいる
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・生活環境保全の重要性から判断して、受益者1人当たりのコストは適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・生活環境への関心は高まっており、コストは適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		19.0 / 20.0	100点換算 → 95 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	地球環境の保護と市民の環境意識の向上を図るため継続する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	1,360	5,562	4,202	2,170	2,170
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他			0	288	288
一般財源	1,360	5,562	4,202	1,882	1,882

予算要求の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高山市快適環境づくり市民会議による環境講演会やグリーンマーケット等の開催にかかる経費</li> <li>・ポイ捨て等及び路上喫煙禁止の啓発にかかる経費</li> </ul>
要求額増減理由	平成24年度から岐阜県市町村緊急雇用創出事業の廃止に伴い、ポイ捨て等及び路上喫煙防止パトロール業務を当事業に計上したため
事業実施の課題	高山市を訪れる観光客等への路上喫煙禁止等の啓発と理解を求めることが必要である。

財務部査定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイ捨て等及び路上喫煙防止パトロールについては商工費(緊急雇用対策事業費)で予算化</li> <li>・快適環境づくり市民会議、ポイ捨て等防止、グリーンマーケットに係る経費については、環境政策推進事業費へ移行</li> <li>・公害対策に関する事業(41500、41510、41525)を統合</li> <li>・経費については、積算内容を精査</li> </ul>
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42200	ごみ収集事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2960
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	2	清掃費		基本施策	2	資源循環型社会の実現を図る	
	目	2	塵芥処理費		施策	2	収集処理業務の効率化	
実施計画事業	ごみ収集事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・日常生活に伴って生じる一般廃棄物を適正に収集運搬し、快適な市民生活環境を保全する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市内全域の可燃・不燃・資源ごみ・容器包装・粗大ごみ等の収集運搬委託業務と、不法投棄防止対策。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		ステーションごみ収集回数	日	目標値	259	259	258	260
算出根拠等	年間ごみ収集日数	達成率(%)	100	100	100	-		
成果面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		ステーションごみ収集量	t	目標値	18,368	18,420	18,409	18,370
算出根拠等	ごみ処理基本計画	達成率(%)	100	99	100	-		
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		ステーションごみ収集量	t	目標値				
算出根拠等		達成率(%)						
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				268,981	266,891	276,550	276,000
	受益者負担(使用料・負担金等)				0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				0	0	0	0
	一般財源				268,981	266,891	276,550	276,000
コスト指標	指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		2,854	2,845	2,964	2,958	
		受益者 市民(4月1日現在)(B)		94,235	93,822	93,312	93,300	
	②							
算出根拠等								

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			C(0)
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・総合計画に位置づけられ、市民生活の根本となる環境・衛生での重要性は非常に高い。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・ごみの出し方・分別など市民意識も年々高まっている。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・市内約2,500箇所のごみステーションにより、市内全域の収集運搬を行っている。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・市内のごみステーション全て収集運搬を行い、成果指標を達成している。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・市内年間平均約18,300tの可燃、不燃、資源ごみ、容器包装、粗大ごみの収集運搬を行い、市民生活環境・衛生面の保全を行い有効である。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・委託業務として民間活力の活用と、ごみの資源化のため継続し実施している。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	ごみ収集運搬を全面委託化し、コスト削減を行っている。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・コスト削減により市民1人当たり年間金額もほぼ安定し、適正である。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・ごみ収集運搬を全面委託化し、低コスト化を図り適正である。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		18.0 / 20.0	100点換算		90 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・民間活力の活用、賃金職員への転換など、コスト削減が進んでいる。廃棄物の総量削減やごみの資源化について継続して取り組む必要がある。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、廃棄物の総量削減やごみ資源化について継続して取り組む必要があるとの指摘をしており、今後も継続して取り組む必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	276,550	278,128	1,578	276,300	276,300
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他		5,370	5,370	5,440	5,440
一般財源	276,550	272,758	△ 3,792	270,860	270,860

予算要求の概要	・ごみ収集運搬及び不法投棄監視パトロール業務にかかる経費
要求額増減理由	平成24年度から岐阜県市町村緊急雇用創出事業の廃止に伴い、不法投棄監視パトロール業務を当事業に計上したため
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	積算内容を精査し、前年並み事業費とする
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42205	ごみ焼却処理事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2960
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	2	清掃費		基本施策	2	資源循環型社会の実現を図る	
	目	2	塵芥処理費		施策	2	収集処理業務の効率化	
実施計画事業	ごみ焼却処理事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	適正な焼却処理により「すみよさ」のある生活環境を確保する。		
概要	事業の実施手法(手段)	ごみ焼却施設の維持管理を直営により実施する。焼却炉の適正な運転管理を行うため、設備の保守点検業務を民間委託により実施する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 焼却処理量(t)	算出根拠等	計量数量	達成率(%)	100	100	100	-
			達成率(%)	100	100	100	-
②	算出根拠等	計量数量	達成率(%)				-
			達成率(%)				-
成果指標	① 焼却灰量(t)	t	目標値	1,943	1,864	1,864	1,864
			実績値	1,943	1,864	1,864	-
算出根拠等	計量数量	達成率(%)	達成率(%)	100	100	100	-
			達成率(%)				-
②	算出根拠等	計量数量	達成率(%)				-
			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)			(A) 144,336	129,015	154,840	80,000
	受益者負担(使用料・負担金等)			121,535	118,574	120,415	80,000
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0
	一般財源			22,801	10,441	34,426	0
コスト指標	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)		(A/B) 1,532	1,375	1,659	857
		受益者	市民(4月1日現在)	(B) 94,235	93,822	93,312	93,300
	②						
算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	市民生活から発生する一般廃棄物の処理については重要性は高い。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・環境を害さない維持管理が重要であり、周辺住民は環境に対して関心が高い。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・施設の延命使用によるコスト減につながると考える。またごみの推移は横ばいである。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・一般廃棄物の焼却基準(焼却灰熱しゃく減量)をクリアしている。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・ごみ質内容を確認し燃焼状況の適正管理と日常点検で異常個所の早期発見に努めている。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・更なるごみの分別、資源化の啓発に努めている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト縮減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・更なるごみの分別、資源化及び、施設の延命化に努めている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・全市民から一般廃棄物を受付け、処理費から判断して、受益者1人当たりのコストは適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・専門性が必要な分野は委託化し業務の効率化を図っているが、毎日の点検業務で発見した機器の不良箇所の対応は、早く対応するため市職員が行うべきである。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		20.0 / 20.0	100点換算 → 100 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	循環型社会形成のため、廃棄物の総量削減と廃棄物として排出されたごみの資源化を推進するとともに、排出された可燃ごみの適正な処理を継続する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、廃棄物の総量削減を進め、コスト縮減を図る必要があるとの指摘をしており、今後も廃棄物の総量削減やごみの資源化によるコスト縮減に継続して取り組む必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	154,840	88,745	△ 66,095	78,375	78,375
財源内訳					
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他	120,533	88,745	△ 31,788	78,375	78,375
一般財源	34,307	0	△ 34,307		

予算要求の概要	・ごみの焼却処理にかかる経費 ・施設の維持管理及びダイオキシン類濃度等の環境調査にかかる経費 資源リサイクルセンター 久々野クリーンセンター
要求額増減理由	・飛騨市との事務委託解消による経費の減 ・荒城クリーンセンター解体のための調査にかかる経費の増 ・廃棄物計量システム改良にかかる経費の増
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	積算内容を精査
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42210	ごみ埋立処理事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2960
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	2	清掃費		基本施策	2	資源循環型社会の実現を図る	
	目	2	塵芥処理費		施策	2	収集処理業務の効率化	
実施計画事業	ごみ埋立処理事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312人
	どういう状態にしたいのか(意図)	適正な埋立処理による「すみよさ」のある生活環境を確保する。		
概要	事業の実施手法(手段)	廃棄物の埋立処理事業を民間委託により実施する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 埋立量		t	目標値	3,889	3,724	3,724	3,724
			実績値	3,889	3,724	3,724	-	
算出根拠等		計量数量	達成率(%)	100	100	100	-	
②			目標値				-	
			実績値				-	
	算出根拠等		達成率(%)				-	
① 埋立残容量(第2次埋立処分地)		t	目標値	109,089	105,572	102,376	99,180	
			実績値	109,089	105,572	102,376	-	
	算出根拠等	計量数量	達成率(%)	100	100	100	-	
②			目標値				-	
			実績値				-	
	算出根拠等		達成率(%)				-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)	(A)	31,346	32,754	51,700	48,000		
	受益者負担(使用料・負担金等)		327	294	750	0		
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		0	0	0	0		
	一般財源		31,019	32,460	50,950	48,000		
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	333	349	554	514		
	受益者	市民(4月1日現在)	(B)	94,235	93,822	93,312	93,300	
	算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	市民生活から発生する一般廃棄物の処理については重要性は高い。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・環境を害さない維持管理が重要である
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・施設の延命使用がコスト減につながると考える。現在の埋立処分地に入るごみは全体比では廃プラごみが占める。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・残容量を確認しながら埋立管理。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・ごみを出さない、プラスチック製品の長期使用(物を大切に使用)の啓発。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・更なるごみの分別、資源化の啓発に努めている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・更なるごみの分別、資源化及び、施設の延命化の努力を実施している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・全市民から一般廃棄物を受け、受益者1人当たりのコストは適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・市民のごみ排出量抑制、分別、再資源の啓発。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計	20.0 / 20.0		100点換算 → 100 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・民間活力の活用、賃金職員への転換など、コスト削減が進んでいる。廃棄物の総量削減やごみの資源化について継続して取り組む必要がある。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、廃棄物の総量削減やごみ資源化について継続して取り組む必要があるとの指摘をしており、今後も継続して取り組む必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	51,700	54,791	3,091	46,570	46,750
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他	750	22,056	21,306	40,622	40,622
一般財源	50,950	32,735	△ 18,215	5,948	5,948

予算要求の概要	・ごみの埋立処理にかかる経費 ・施設の維持管理及びダイオキシン類濃度等の環境調査にかかる経費 資源リサイクルセンター埋立処分地 久々野クリーンセンター埋立処分地 丹生川埋立処分地 荘川埋立処分地 上宝埋立処分地
要求額増減理由	・RC埋立地場内道路修繕の実地
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	積算内容を精査 実績を踏まえ減額
市長査定の考え方	財務部査定のとおりに

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42215	ごみ減量化推進事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2172
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	2	清掃費		基本施策	2	資源循環型社会の実現を図る	
	目	2	塵芥処理費		施策	1	ごみの減量化や資源化	
実施計画事業	ごみ減量化意識高揚事業、生ごみ堆肥化設備設置事業補助							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・ごみシール制や生ごみ堆肥化装置の普及促進により、ごみの減量化を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・ごみ処理券回収報奨金の交付 ・生ごみ堆肥化装置設置補助の交付		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	ごみ処理券回収実施団体数	団体	目標値	70	70	70
実績値				73	70	70	-
算出根拠等			達成率(%)	104	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②		目標値				
実績値						-	
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	枚	目標値	300,000	300,000	300,000	300,000
実績値			399,532	398,351	398,000	-	
算出根拠等			達成率(%)	133	133	133	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②	件	目標値	200	74	74	74
実績値			33	51	74	-	
算出根拠等			達成率(%)	17	69	100	-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			12,657	13,084	14,800	14,800
	受益者負担(使用料・負担金等)			11,834	12,743	14,585	14,585
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0
	一般財源			823	341	215	215
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)	134	139	159	159	
		受益者 市民(4月1日現在)(B)	94,235	93,822	93,312	93,300	
	②						
算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・総合計画に位置づけられ、資源の循環型社会の実現のため、市民啓発の重要性は非常に高い
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・ごみの減量化のため、ごみの出し方・分別など市民意識も年々高くなっている
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・ごみシールの回収や生ごみ堆肥化装置設置に対する補助により、減量化に対する市民の意識の向上と、ごみの減量化を図ることができる
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・ごみ処理券回収枚数は、成果指標の目標値を達成している ・生ごみ堆肥化装置の設置については、更なる啓発が必要である
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・ごみの総量は減少傾向にあり、減量化意識の向上を図る上で有効である
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・ごみの減量化を推進するためには、生産から消費までの各段階で、市民や事業者の減量化に対する更なる意識改革が必要である
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・ごみ資源化意識啓発事業と併せ、廃棄物の総量削減を進め、コスト削減を図る必要がある
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・ごみの減量化を図るための意識改革を図るという事業の性格からして、受益者1人当たりのコストは適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・ごみの総量は減少傾向にあり、成果は上がっている
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		18.0 / 20.0	100点換算 → 90 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・ごみ排出量の減少は、分別がしっかりなされているという前提において望ましいことである。今後もごみ資源化意識啓発事業と併せ、廃棄物の総量削減を進め、コスト削減を図る。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・ごみの総量は減少しているが、家庭における新たなごみ減量化の取組みを検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	14,800	14,350	△ 450	13,800	13,800
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他	14,800	14,350	△ 450	13,800	13,800
一般財源			0		

予算要求の概要	・無料可燃ごみ処理券回収報奨金の交付 ・無料ごみ処理券作成にかかる経費 ・家庭用生ごみ堆肥化装置設置補助金の交付
要求額増減理由	
事業実施の課題	ごみの減量化を推進するためには、生産から消費までの各段階で、市民や事業者の減量化に対する更なる意識改革が必要である。

財務部査定の考え方	積算内容を精査 実績を踏まえ減額
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42220	ごみ資源化推進事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2960
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	2	清掃費		基本施策	2	資源循環型社会の実現を図る	
	目	2	塵芥処理費		施策	1	ごみの減量化や資源化	
実施計画事業	ごみ資源化意識高揚事業、ごみ再資源化事業、ごみ処理施設維持修繕事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・一般廃棄物の資源化によるごみの減量と、資源の循環を啓発する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・容器包装及びその他資源化できるごみの集団回収への奨励 ・資源ごみの収集運搬選別及び容器リサイクル施設での選別		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 資源回収、資源化総量	目標値		t		2,644	2,656	2,650	2,644
実績値					2,644	2,777	2,650	-	
算出根拠等	実績値/目標値(ごみ処理基本計画)		達成率(%)		100	105	100	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	② 資源ごみ収集量	目標値		t		3,659	3,698	3,719	3,741
実績値					3,658	3,450	3,719	-	
算出根拠等	実績値/目標値(ごみ処理基本計画)		達成率(%)		100	93	100	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 資源ごみ資源化量	目標値		t		3,659	3,698	3,719	3,741
実績値					3,361	3,364	3,640	-	
算出根拠等	実績値/目標値(ごみ処理基本計画)		達成率(%)		92	91	98	-	
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)				1,054	1,012	1,205	1,209
受益者		市民(4月1日現在)	(B)		94,235	93,822	93,312	93,300	
算出根拠等									
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)				(A)	99,359	94,953	112,400	112,800
	受益者負担(使用料・負担金等)					0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					62,776	50,831	15,300	0
一般財源					36,583	44,122	97,100	112,800	
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)				1,054	1,012	1,205	1,209
		受益者	市民(4月1日現在)	(B)		94,235	93,822	93,312	93,300
	算出根拠等								

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・総合計画に位置づけられ、資源の循環型社会の実現のため、市民啓発の重要性は非常に高い。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・ごみの資源化のため、ごみの出し方・分別など市民意識も年々高くなっている。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・市内全域約2,500箇所のごみステーションにより、資源ごみを週2回の収集運搬を行っている。 ・市内50か所の資源ごみ拠点集積所により、新聞・雑誌、段ボール、古布、紙パックの集積回収を行っている。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・市内全域のごみステーション、資源ごみ拠点集積所から収集運搬を行って選別保管し、資源化成果指標を概ね達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・年間平均資源ごみ収集量に対し、年間平均資源化量は平均98%に達しており、有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・高山市全域にごみの出し方リーフレットの配布を行っている。また、リサイクル推進委員へのごみの出し方などの説明会の開催と、収集業者及び資源ごみ拠点集積所受付業務員へ資源ごみ受付などについて啓発を行っている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	資源ごみ収集運搬、資源ごみ拠点集積所回収、及び資源ごみ選別保管を全面委託化し、コスト削減を図っている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・コスト削減により市民1人当たり年間金額も安定し、適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・資源ごみ収集運搬、選別保管を全面委託化し、低コスト化と資源物品質向上を図り適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		19.0 / 20.0	100点換算 → 95 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・引き続き市民、集団資源回収団体への啓発を実施するなど、更に資源化意識の高揚、資源化を図る				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、引き続き市民、集団資源回収団体への啓発を実施するなど更に資源化の意識高揚、資源化を図っていく必要があるとの指摘をしており、こうした取り組みを継続するとともに、資源ごみの総量を減少させ、コスト削減につながる取組みを検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	112,400	117,018	4,618	111,050	111,050
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他	15,300	20,396	5,096	15,300	15,300
一般財源	97,100	96,622	△ 478	95,750	95,750

予算要求の概要	・集団資源回収事業奨励金の交付 ・資源ごみの収集運搬、選別回収及び容器リサイクル施設での選別、資源化にかかる経費 ・資源化施設の維持管理にかかる経費
要求額増減理由	・ごみ収集の全市統一に伴い、ごみの分別区分早見表を全戸配布するための経費の増 ・資源ごみ拠点集積所搬入者の増加に伴い、拠点集積所受付にかかる経費の増
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	積算内容を精査 実績を踏まえ減額
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42225	ごみ焼却施設保守事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2960
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	2	清掃費		基本施策	2	資源循環型社会の実現を図る	
	目	2	塵芥処理費		施策	2-3	収集処理業務の効率化・焼却施設の整備	
実施計画事業	ごみ焼却処理事業、焼却処理施設整備事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・焼却施設の適正な管理により、市内から排出される廃棄物を適正に処理・処分を行うための維持管理及び事故防止等。		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源リサイクルセンターのごみ焼却施設の維持管理</li> <li>・久々野クリーンセンターのごみ焼却施設の維持管理</li> <li>・RC清掃工場制御系設備更新工事</li> <li>・ごみ量増化対応工事</li> <li>・長期修繕計画に基づいた設備の保守点検業務。</li> </ul>		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 焼却処理量	t	算出根拠等	計量数量	22,890	22,657	22,657	22,657
			達成率(%)	100	100	100	-
②	t	算出根拠等	計量数量	1,943	1,864	1,864	1,864
			達成率(%)	100	100	100	-

  

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	歳出(千円)	H21	H22	H23	H24
			決算額	決算額	予算額	実施計画額
財源内訳	一般財源	182,635	239,589	300,260	120,000	
		0	0	0	0	
コスト指標	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	1,938	2,554	3,218	1,286
		受益者 市民(4月1日現在)	(B)	94,235	93,822	93,312

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	市民生活から発生する一般廃棄物の処理については重要性は高い。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・環境を害さない維持管理が重要であり、周辺住民は環境に対して関心が高い。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・施設の延命使用によるコスト減につながると考える。またごみの推移は横ばいである。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・一般廃棄物の焼却基準(焼却灰熱しやく減量)をクリアしている、また各種検査結果は法的基準以内の維持管理である。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・日常の点検業務で不良箇所の早期発見に努めている。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・更なるごみの分別、資源化の啓発に努めている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・長期修繕計画に基づき、適正な整備に努めている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・全市民から一般廃棄物を受け、事業のごみ処理費から判断して、受益者1人当たりのコストは適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・専門性が必要な分野は委託化し業務の効率化を図っているが、毎日の点検業務で発見した機器の維持管理は市職員がおこなうべきである。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		19.0 / 20.0	100点換算 → 95 / 100	

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・焼却炉の適正な運転管理を行うため、長期修繕計画に基づいた設備の保守点検を継続する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	300,260	200,338	△ 99,922	115,000	115,000
財源内訳					
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他			0		
一般財源	300,260	200,338	△ 99,922	115,000	115,000

予算要求の概要	・焼却炉の適正な運転管理を行うための設備の保守点検にかかる経費
要求額増減理由	・施設整備工事完了に伴う減
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	実施計画を基に積算内容を精査
市長査定の考え方	財務部査定のとおりに

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42235	清掃関係事務費		担当課	水道環境部 生活環境課	内線	2172
予算	会計	1	一般会計	政策			
	款	4	衛生費	分野			
	項	2	清掃費	基本施策			
	目	2	塵芥処理費	施策			
実施計画事業							
市長の約束							

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・ごみ処理施設の安全な管理運営を行う		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源リサイクルセンターの夜間警備委託</li> <li>・料金徴収用パソコン保守点検業務</li> <li>・清掃一般事務に係る事務費</li> </ul>		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等	継続事業	達成率(%)				
成果面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				-
成果指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等	継続事業	達成率(%)				-
コスト面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				-
コスト内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				6,001	5,894	8,288	8,300
	受益者負担(使用料・負担金等)				0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				0	0	0	0
コスト指標	一般財源				6,001	5,894	8,288	8,300
	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画		
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)		64	63	89	89		
	② 受益者 市民(4月1日現在)(B)		94,235	93,822	93,312	93,300		
算出根拠等								

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	C	・市民の安全、安心な生活を守る上で、ごみ処理施設の適正な管理運営を行うことは重要である
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・市民の安全、安心な生活を守る上で、ごみの適正な処理は重要である
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・市民の安全、安心な生活を守る上で、ごみの適正な処理は重要である
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	評価対象外	・ごみ処理施設の管理運営を行う一般事務費であり、目標値の設定ができないため
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・ごみ処理施設の安全な管理運営は、市民の安全、安心な生活に結びついている
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・引き続き、ごみ処理施設の安全な管理運営を目指す
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・引き続き、ごみ処理施設の安全な管理運営を目指す
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・市民の安全、安心な生活を守る上で、ごみの適正な処理は重要であり、受益者1人当たりのコストは適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・市民の安全、安心な生活を守る上で、ごみの適正な処理は重要であり、受益者1人当たりのコストは適正である
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		16.0 / 18.0	100点換算	89 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・引き続き、ごみ処理施設の安全な管理運営を目指す				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	8,288	9,903	1,615	8,123	8,123
財源内訳					
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他			0		
一般財源	8,288	9,903	1,615	8,123	8,123

予算要求の概要	・資源リサイクルセンターの施設警備にかかる経費 ・ごみ処理関係管理事務にかかる経費
要求額増減理由	・適正な施設の運営管理を行うための職員の養成にかかる経費の増
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	積算内容を精査
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42250	粗大ごみ再利用化事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2960
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	2	清掃費		基本施策	2	資源循環型社会の実現を図る	
	目	2	塵芥処理費		施策	1	ごみの減量化や資源化	
実施計画事業	ごみ再資源化事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・排出された粗大ごみを再利用しリフォームフェアによるごみの減量化と、資源化意識を高める。		
概要	事業の実施手法(手段)	・粗大ごみのリフォーム ・リフォームフェアの開催		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	リフォームフェア応募者数	人	目標値	3,000	3,000	3,000	3,000
実績値			3,486	2,988	3,000	-		
算出根拠等	継続事業		達成率(%)	116	100	100	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②			目標値				
実績値								
算出根拠等			達成率(%)					
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	リフォームフェア販売個数	個	目標値	682	667	600	600
実績値			682	667	600	-		
算出根拠等	継続事業		達成率(%)	100	100	100	-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②			目標値				
実績値								
算出根拠等			達成率(%)					
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				3,510	3,582	3,970	4,000
	受益者負担(使用料・負担金等)				0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				2,023	538	700	
	一般財源				1,487	3,044	3,270	4,000
コスト指標	指標名		単位	H21	H22	H23見込	H24計画	
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		37	38	43	43	
		受益者 市民(4月1日現在)(B)		94,235	93,822	93,312	93,300	
	②							
算出根拠等								

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・総合計画に位置づけられ、再資源化啓発の重要性は高い。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・粗大ごみの再利用化が、循環型社会形成のための啓発としてニーズは高い。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・毎月第3日曜日にリフォーム製品フェアを開催している。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・利用者も徐々に増えてきている。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・リフォーム製品フェアに100円、300円均一製品など工夫を凝らし、市民に利用しやすくなるよう努力している。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・毎月広報たかやまにリフォーム製品フェアの開催案内を掲載し、啓発し継続している。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	リフォーム製品整備及びフェア開催では、賃金雇用によりコスト削減を行っている。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・市民1人当たりコストも低い。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	リフォーム製品整備及びフェア開催では、賃金雇用によりコスト削減を行っている。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		20.0 / 20.0	100点換算		100 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・リフォームフェアの充実を図るなどして、全市域に物を大切にすることを意識を上げ、ごみの減量化を図る				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、今後も廃棄物の総量削減を進め、コスト削減を図る必要があるとの指摘をしており、引き続きこうした取組みを継続していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	3,970	3,997	27	3,910	3,910
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他	700	300	△400	700	700
一般財源	3,270	3,697	427	3,210	3,210

予算要求の概要	・不用品リフォームにかかる経費
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	積算内容を精査
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42255	発泡スチロール再資源化事業費	担当課	水道環境部 生活環境課	内線	2960
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4 衛生費		分野	6 環境・衛生	
	項	2 清掃費		基本施策	2 資源循環型社会の実現を図る	
	目	2 塵芥処理費		施策	1 ごみの減量化や資源化	
実施計画事業	ごみ再資源化事業					
市長の約束						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・日常生活に伴って生じる資源ごみを再資源化することにより、ごみの減量化と資源循環型社会の実現を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・発泡スチロールの資源ごみを収集運搬し、減容器で中間処理し再資源化する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 発泡スチロール収集搬入量		t	目標値	14	14	14
			実績値	14	14	14	-
算出根拠等	ごみ処理基本計画		達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 発泡スチロール資源化量	t	目標値	14	14	14	14
実績値			14	14	14	-	
算出根拠等	ごみ処理基本計画		達成率(%)	100	100	100	-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	28	29	33	32
実績値			94,235	93,822	93,312	93,300	
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			2,647	2,692	3,080	3,000
	受益者負担(使用料・負担金等)			0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			0	0	0	0
コスト面	一般財源			2,647	2,692	3,080	3,000
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)			28	29	33	32
	② 受益者 市民(4月1日現在)(B)			94,235	93,822	93,312	93,300
算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	・総合計画に位置づけられ、市民生活の根本となる環境・衛生での重要性は非常に高い。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	A	・資源ごみの発泡スチロールについては、資源として分別されている。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	A	・市内50箇所の資源ごみ拠点集積所での収集運搬・資源化により、ごみの減量化と、資源循環型社会の実現が図られている。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	A	・市内の資源ごみ拠点集積所で収集運搬を行い、資源化により成果指標を達成している。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B	・資源ごみ拠点集積所が有効利用されている。 ・拠点集積所利用者が非常に多い箇所の適正な受付対応が必要である。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	A	・毎年、ごみの出し方、分別に関するリーフレットを全戸に配布し啓発している。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	A	ごみ収集運搬、資源化業務を全面委託化し、コスト削減を図っている。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	A	・市民1人当たりのコストも低く適正である。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	A	・ごみ収集運搬を全面委託化し、低コスト化を図り適正である。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	19.0 / 20.0	100点換算	95 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・発泡スチロールの資源化啓発を継続し、資源化によるごみの減量化を図る				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、今後も廃棄物の総量削減を進め、コスト削減を図る必要があるとの指摘をしており、引き続きこうした取組みを継続していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 査定額	市長 査定額
歳出(千円)	3,080	3,248	168	3,080	3,080
財源内訳					
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他			0		
一般財源	3,080	3,248	168	3,080	3,080

予算要求の概要	・発泡スチロールの収集運搬、減容処理にかかる経費
要求額増減理由	・発泡スチロールの収集量の増加に伴う減容処理にかかる経費の増
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	積算内容を精査し、前年並み事業費とする
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42260	容器包装廃棄物再資源化事業費	担当課	水道環境部 生活環境課	内線	2960
予算	会計	1 一般会計	総合計画	政策	3 「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4 衛生費		分野	6 環境・衛生	
	項	2 清掃費		基本施策	2 資源循環型社会の実現を図る	
	目	2 塵芥処理費		施策	1 ごみの減量化や資源化	
実施計画事業	ごみ再資源化事業					
市長の約束						

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・日常生活から分別排出される容器包装を適性に資源化し、資源の循環型を啓発する		
概要	事業の実施手法(手段)	・分別収集された容器包装を選別圧縮し、再資源化施設へ排出し資源化する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① プラスチック製容器包装収集量		t	目標値	649	650	651
実績値				706	700	702	-
算出根拠等	分別収集計画		達成率(%)	109	108	108	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	② 紙製容器包装収集量	t	目標値	620	621	621	622
実績値			657	643	676	-	
算出根拠等	分別収集計画		達成率(%)	106	104	109	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① プラスチック製容器包装資源化量	t	目標値	649	650	651	651
実績値			649	647	702	-	
算出根拠等	分別収集計画		達成率(%)	100	100	108	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	② 紙製容器包装資源化量	t	目標値	620	621	621	622
実績値			620	617	676	-	
算出根拠等	分別収集計画		達成率(%)	100	99	109	-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)	(A)	47,076	45,571	56,000	56,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)		0	0	0	0	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		0	0	0	0	
	一般財源		47,076	45,571	56,000	56,000	
コスト指標	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	500	486	601	601	
		受益者 市民(4月1日現在)	(B)	94,235	93,822	93,212	93,200
	②						
算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・総合計画に位置づけられ、市民生活の根本となる環境・衛生での重要性は非常に高い。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	A	・資源ごみの出し方・分別など市民ニーズも年々高くなっている。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	A	・市内全域の資源ごみステーションにより、資源ごみ収集運搬を行い、分別資源化が全体に波及している。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	A	・市内全域で資源ごみの分別収集が実施され、成果指標を達成している。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	・市内全域の資源ごみステーションで容器包装資源ごみを、ごみシール不要で収集運搬し、分別の促進啓発を図っている。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	A	・毎年市内全戸にごみの分け方、出し方リーフレットを配布し周知している。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	A	ごみ収集運搬を全面委託化し、コスト削減を行っている。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	A	・市民1人当たりコストも低く資源化され適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	・ごみ収集運搬を全面委託化し、低コスト化を図り適正である。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	20.0 / 20.0	100点換算	100 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・運搬された容器包装の適正な再商品化を継続し、ごみの減量化を図る				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度事業評価において、今後も廃棄物の総量削減を進め、コスト削減を図る必要があるとの指摘しており、引き続きこうした取組みを継続していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	56,000	55,769	△ 231	52,400	52,400
財源内訳					
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他			0		
一般財源	56,000	55,769	△ 231	52,400	52,400

予算要求の概要	・プラスチック製容器包装、紙製容器包装の選別圧縮保管にかかる経費
要求額増減理由	
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	積算内容を精査 実績を踏まえ減額
市長査定の考え方	財務部査定のとおり

# 平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	42280	ごみ処理施設建設事業費		担当課	水道環境部 生活環境課		内線	2960
予算	会計	1	一般会計	総合計画	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして	
	款	4	衛生費		分野	6	環境・衛生	
	項	2	清掃費		基本施策	2	資源循環型社会の実現を図る	
	目	2	塵芥処理費		施策	3	新焼却施設の整備	
実施計画事業	焼却処理施設整備事業							
市長の約束								

## 1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	全市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	建設場所の決定にあたり、「新設炉建設基礎検討報告書」及び「ごみ処理基本計画」を踏まえた「手順・手法」の検討を行う委託業務。		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新ごみ処理施設の検討</li> <li>・新ごみ処理施設用地選定等の手法の検討</li> <li>・不燃ごみ中のプラスチック類の量の把握</li> </ul>		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

## 2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				
成果面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				
成果指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		算出根拠等		達成率(%)				
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)				2,615	2,174	5,000	5,000
	受益者負担(使用料・負担金等)				0	0	0	0
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				0	0	0	0
コスト指標	一般財源				2,615	2,174	5,000	5,000
	指標名				H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		28	23	54	54	
	②	受益者 市民(4月1日現在)(B)		94,235	93,822	93,312	93,300	
	算出根拠等							

## 3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	現在の施設は老朽化し、新焼却施設の計画は関心ある事業である。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	A	何処に建設されるのか市民の関心度は高い。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	何処に建設されるのか、市民は近からず、遠からずの位置関係での関心度は高い。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	新ごみ処理施設の検討委託業務であり、目標値の設定ができないため
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	A	数値化した成果品を提示し市民と行政との信頼関係を構築する上で有効である。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	A	数値化した成果品を提示し市民と行政との信頼関係を構築し土地所有者と住民の理解が得られる内容で取り組んでいる。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	A	収集コスト等を含めた総合的にコスト削減意識した計画に取り組む。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	A	数値化により比較コスト値を表現する。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	A	数値化により比較コスト値を表現する。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	17.0 / 18.0	100点換算	94 / 100

## 4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・新ごみ処理施設の建設に向けて、調査を継続する				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

## 5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部査定額	市長査定額
歳出(千円)	5,000	7,581	2,581	5,000	5,000
財源内訳					
国庫支出金			0		
県支出金			0		
起債			0		
その他			0		
一般財源	5,000	7,581	2,581	5,000	5,000

予算要求の概要	・新ごみ処理施設整備のための検討委員会の開催及び基礎調査にかかる経費
要求額増減理由	・新ごみ処理施設建設に向けた検討委員会の設置に伴う委員報酬等の委員会開催にかかる経費の増
事業実施の課題	

財務部査定の考え方	積算内容を精査
市長査定の考え方	財務部査定のとおり